

図録発刊の道のり

「見つけよう自然のなかま

ーならやまの昆虫と植物たちー」

会長 鈴木 末一

始まりは、ならやまを巡視していて、カメラを構える菊川年明さんを見かけたことからです。

チョウにそっと近づき、シャッターを切っておられました。活動日ではない日のことです。被写体は動く昆虫です。その瞬間のシャッターチャンスを求めて、ならやまを十数年も探索されてきました。昆虫大好き少年だった菊川さんは入会以前から昆虫を撮り続け、ならやまだけでもフィルムに収めた昆虫は600種を超えました。貴重な写真は、会のホームページを飾っています。

一方、木村裕さんは、ならやまプロジェクト活動の記録を残すために、各グループの活動をくまなく巡回して撮影する合間に、生息している植物の姿をカメラに収めてこられました。その数約200種に及びます。そして西谷範子さんは、花班のリーダーとして活動しながら、四季それぞれを彩る植物などをカメラに収められていました。お三方の保持されている貴重な知的財産をこのままにしておくのは、との思いは日々高まるばかりでした。

我々の活動は社会のニーズに合致した里山創生を目指さねばなりません。ならやま里山林は市街地にありながら、植生の豊かさで稀有な存在です。恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐのは使命です。子孫から借りている自然資源であるとの自覚を忘れることがあってはなりません。図録の作成は、森林環境教育にとって有効かつ多面的に活用できると考えました。「すべては次世代の子どもたちのために！」がスローガンです。子どもたちが自然のあり方に接し、自然の不思議、自然の魅力、自然の大切さを実感するきっかけになれば、との思いがついに動き出しました。

菊川さんが十数年かけて同定された昆虫類約600種のうち200種、木村さん西谷さんが同定された植物200種の写真データを整理し解説文を執筆しました。「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」と名付け、イベントに参加し



た子どもたちや保護者の方々が自然に目を向けるきっかけにしたいと考え、その資金作りに、トヨタ環境活動助成国内小規模プロジェクトに応募しました。7月31日付け第一次選考通過との朗報。さっそく図録編集委員会を

8月9日に立ち上げました。お三方の他に、青木幸、阿部、岡田、辻本信、平岡、古川、吉川の皆様方に委員をお願いし、内容構成、利活用の方法、担当割り当て、生きた教材にするには、知的好奇心を引くには、などの話し合いからスタート。また、表紙デザインを公募したらとの発議があり、会員のお孫さんと佐保台小学校の児童たちから作品を募集することにしました。

内容構成について、昆虫編はいとなみ編と四季編の2部構成に、植物編はより知的好奇心を養えるよう楽しい内容にするとの大要が決まりました。

いよいよお三方中心の奮闘がスタートです。委員会を重ねるにつれ、解説文に使う教育漢字への配慮、表現の検討、用語の注釈などについて何度も意見を交わし、主な読者である小学生にとってより親しみのある図録にと、徳地さんにも途中から参画していただき、熱心な編集作業が続きました。

10月21日、助成金について本選考決定との連絡。編集作業に一層拍車がかかり、12月18日には、表紙デザイン表彰者・作品も決定しました。

年明けとともに、編集作業は校正が中心となり、各委員からの膨大な指摘、意見を吟味しつつ、来る日も来る日もパソコンと向かい合いました。3月25日、皆さんの叡智を結集した労作がようやく完成。委員会立ち上げから約7カ月に及ぶ一大プロジェクトは一段落しました。

手前味噌かもしれませんが、図録は、他に類を見ないものであり、会にとっても知的財産の一つになると自負しています。今後は、有効利活用について深め合うことが大切です。会員の皆様のお知恵を是非お貸しいただきますようお願いいたします。